

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

- ☆お詫び・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ☆歌と踊りの集い感想・・・・・・・・・・3
- ☆歌と踊りの集い感想2・・・・・・・・・・4
- ☆総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- ☆学習会・スケジュール・・・・・・・・・・6
- ☆虫めがね・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- ☆みなと夏祭り・・・・・・・・・・・・・・・・8
- ☆実習所報告・寄付のお礼・・・・・・・・9
- ☆小野塚連載・・・・・・・・・・・・・・・・10
- ☆夕会便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- ☆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・12



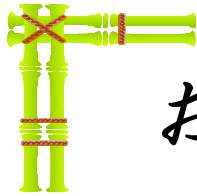


巻頭文

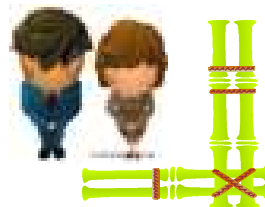


今年は四月位から二十五度を超える暑さが何回も
続いています。
この夏は三十五度から四十度を平気で超える猛暑
日がもう早くも続いています。
皆さん!水分をよく採って、熱中症や水の事故など
に気をつけて下さいね!

幸



お詫び



風の子会会報読者の皆さまに謝罪しなければ成りません。先月号（七
月号）の編集後記で「日本が残念ながら予選敗退となってしまいました。」
と軽率な発言をしてしまったことに深く陳謝致します。申し訳ございま
せんでした。サッカーファンの皆様には不快な思いをさせてしまいました
。今年のワールドカップは最後まで解らない波乱づくしの大会でした。
日本のサッカーレベルが上がっていたのはうれしい誤算でした。

三木 直人

誤字脱字訂正

一ページ目： 外に出よう暫定院長→外に出よう暫定実行委員長
得定非営利活動法人風の子会→特定非営利活動法人風の子会

八月十七日に風の子会のメンバーでありました、金田潤坤
さんがお亡くなりになりました。

ご遺族様の意向により、お香典・お花等は辞退させて頂く
とのことでした

ご冥福をお祈りします。

風の子会一同



歌と踊りの集い 感想

Q、歌と踊りはどうでしたか？

踊りの振り付けが楽しかった。踊りの特に踵と足に注意して踊れました。
最後の決めポーズはばっちりで俺カッキーって感じてました。

Q、来年やりたい事は？

昨日のことは忘れた。来年のことはわからない。

野田広一



歌と踊りの係を丸山さんと一緒にさせて頂きました。今年の出し物はロシア民謡の「一週間」をモチーフにして、風の子の雰囲気や伝えられるような替え歌にして、メロディーも大きくアレンジした物になりました。今回制作するに当たり、まず客観的に「おもしろい物を」また、「やり遂げた後自信に繋がる物を」それを念頭に妥協のない作りの物を丸山さんと手がけてきました。

風の子のみなさん如何でしたでしょうか？楽しめましたか？当日はリハーサルもなしにぶっつけ本番でしたので、私も全体を客観的に見ることが出来ませんでした。みなさんの意識が集中していると感じることが出来ました。これは練習では感じなかったことなので、公の場で発表をするという機会は大変貴重な体験なのでは？と思いました。

歌と踊りの集い以外でもこのような体験を通じて、これからは繋がる何かを私共々感じられればと願っています。またみなさん一緒に何かを作って行きましょう。ボランティアで来て下さったみなさん、ありがとうございました。

最後に風の子の歌と踊りをご覧になって楽しんで下さったお客様、いらっしやいましたらその感想を風の子のメンバーに伝えて下さい。よろしくお願ひします。

山名 宗孝

歌と踊りの集い感想！

～パート2～



風の子のメンバーさん、職員の方々お世話になっております。ボランティアとして時々参加させて頂いてます。

先日の歌と踊りの集いですが、今回で2回目の参加となります。今回、何度か練習に参加して覚えたはずなのに…本番で緊張して頭が真っ白になり、自分の事で精一杯で全体もみれず一瞬で終わってしまったような気がしますね。

全体的に楽器を使ったものが多かったような印象があるのですが…。

風の子の出し物もとても印象的で良かったなと思います。来年がまた楽しみです。今度は誰が変装するのかなあ…。というか所長にまたやって頂きましょう(笑)良かったら来年もまた参加させて頂けたらうれしいです。

暑いので皆様お身体には十分気をつけてくださいね。

さいたろう



今年の（歌と踊り）を振り返って

去る七月十七日、麻布区民センターで、「第三十回歌と踊りの集い」が開かれました。風の子会の今年の出し物は、ロシア民謡「一週間」の替え歌を、風の子風にアレンジしたものです。振り付けも、とてもよくできていたと思います。それからこれはボクだけが、感じたことかも知れないのですが、見に来てくださる方が、いつもより少し少ないかなったのではないですか。来年は見に来てくださる方が、満員になるように頑張りたいと思っています。

太田 稔



今回歌と踊りの集いに初めて参加させて頂き、また担当もやらせて頂きました。初めての試みということもあり、段取りが悪く中々思うように進まないジレンマを感じながらも、諸先輩方や、ボランティアの皆さん、歌と踊りの実行委員の皆さんに色々教えてもらい、メンバーも一生懸命練習に取り組み、何とか終わることが出来ました。

「成功」の定義は難しいですが、風の子のメンバー、並びに見てくださった観客の方々が楽しめたのであれば、成功と言ってよいのかなと思います。

最後に協力してくださったボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

丸山 泰慶。

定期総会報告

6月19日（土）午後1時から、カナルサイド高浜3階集会室で総会を開きました。

開会に先立ち、花田政國会長から、前年度中に4人の職員が退職となり、その補充引継ぎなどどうなるかと思っていたが、新しく3人の職員を迎えることができ、活動の混乱や沈滞もなく、今までとは違う雰囲気新鮮さを増している。新職員には積極的にやりたいことをやってほしい。この勢いで今年も乗り切っていきましょう。との、あいさつがありました。

活動報告決算報告と活動方針予算は原案通り承認採択されました。その中で、確認された主なことは次のとおりです。

- 1 現在の会の財政バランスは、障害福祉サービス事業収入だけでなく、区が多額な補助金で成り立っていますが、この補助金の主な目的は、通所訓練事業から自立支援法の障害福祉サービス事業に移行したときに作られた経過措置の意味が強く、2010年度で移行して3年目となります。この数年間の通所利用者の減少もこの補助制度のおかげで財政的には乗り切れていますが今後も続くと期待はできません。そこで、現状の障害福祉サービス事業収入に見合った支出構造に近づけるため、職員体制は8人体制（常勤4名・非常勤4名）から、7人（常勤3名非常勤4名）にします。2010年度も補助金はあるので、人員減により生じる余剰は、職員の待遇改善・技能向上や、設備投資など長期展望の活動に使います。
- 2 定期健康診断等の健康維持をすすめてきます。
- 3 外に出ようなど、外に広がる活動を継続発展させ、地域に埋もれたひとりぼっちの障害者を掘り起こします。
- 4 認定NPOの認定を目指します。
- 5 会員名簿は、個人情報保護のために、配布を中止します。
- 6 長期借入金は、2000年度芝実習所開設の改修経費のために募集した900万円は、7年年賦で返済する計画ですので、この2010年度で返済を終了します。

役員選出では、丸岡秀明理事の辞任が報告され、後任の理事としてに実習所所長の岡本裕介さんを選任しました。

井出 義文





学習会報告



6月2日

パフェを作りました。とても甘いアイスとシリアル。みかんもバナナ使いました。美味しかった。サイコー！なおやつ体験でした。

6月9日

サッカーについて話しました。ワールドカップサッカー。南アフリカ大会。深夜の時間帯が多かったです。

6月16日

歌と踊りの練習で振り付けを行いました。

6月23日

丸山君と山名さん二人で、大きな声で発声を教えてもらいました。良かったです。河原さんは、音痴と思いきや上手かったです。

6月30日

歌と踊りの最後の追い込みをしました。振り付けが上手くいっていると思います。猛練習をやりました。歌と山名さんの腰をくねらせながら振った指サイコーに上手かったです。目の前で観て素晴らしいと思いました。

7月7日

練習に初めて来たボランティアさんには歌と歌詞を説明しました。

あいさつをして立ち稽古をしました。

たくさんのボランティアさん来ていただきありがとう。

7月14日

今後の学習会の予定決めをしました。夏休み直前は毎年クイズ大会をやる事になっていましたが、今年は料理になりました。

7月21日

企画と工房の発表会を初めて行いました。企画と工房の内容をお互いに報告しました。

朝生君、齋藤くん、野田くん、福島さん達は、はがきすきの事を教えてくれました。

北原さん、立石さん、おふくろ、飯尾さん達2はビーズ製品の作り方を教えてくれました。

平沼さんは声をかけてくれたサイコーの女の子です。

7月28日

本当は岡本さんと河原さんの講義でしたが、予定をを代えてNHK放送博物館に行ってみました。面白かったです。

松本恵司

スケジュール

7月14日運営委員会

7月17日みなと養護夏祭り

8月12日~8月22日夏休み

9月4日5日旅行





今回のテーマは行ってみたい場所ということなので、考えた結果思い当たったのが自分の頭の中だ！。今までの人生には数知れない楽しい思い出が有ったはずなのに、現在の環境に勝つことが出来なくて、自分を見失っているから心の中に(頭の中に)行きたいのだ。自分を探しに行きたいのだ。

太田 圭子

虫めがね

～行ってみたい場所～

漫画やアニメ・ゲームが大好きな僕としては、ファンタジーな世界（特に『ロー・ファンタジー』）や『エブリデイ・マジック』、漫画・アニメ・ゲームの様な世界に行ってみみたい（体験してみたい）です。

現実世界で言うと、ゲーム・漫画・アニメが関わっている場所（モデルの地や任天堂等のゲーム会社等）に行ってみみたいです。

田村 亮彦

青い海・青い空・燦々と輝く太陽・そして生い茂る木々がある、天国に一番近い島と言われている「ニユー・カレドニア」や「サモア」等の南国へ行ってみたいです。日本の夏は湿気が多く（熱中症に罹りやすくなるため）過ごしにくい一方南国は高温でも湿気が少ないので色んな事が出来ると思うからです。

三木





暑気払い報告 (八月七日)

今回の暑気払いは失敗・想定外の事ばかりでした。今回企画したプログラム（ゲーム）の六つの内三つが初めての試みだったので、反応や難易度・掛かる時間に不安が有りました。特に反応や掛かった時間は初物だから当たり前といえれば当たり前なのですが、想定外ばかりでした。まあ企画した側としても若干試しの為の今回でしたので、今回の出来等を踏まえて、今後に活かしたいです。

田村 亮彦



司会の田村さん、田中さんお疲れ様でした。メンバーさん職員の方々を初め、たくさんのボランティアさんが集まり楽しい会となったのではないのでしょうか0(^-^)0



絵を当てるクイズでは、やはり所長の岡本さんの絵が皆さん印象的だったのかなあ・・・と。さすが笑いをとる人ですね！

クイズは田村はさん、難しくて頭を何度悩ませたことかわかりませんよ～。今度はもう少し優しくお願いしますね。

まだまだ暑さは続きますがお体には気をつけて楽しい夏休みをお過ごし下さいませ。

今回はシャッターチャンス逃して

八月七日（土）高浜での恒例の暑気払いがありました。笑い有り涙有り？の四時間でした。担当者の方お疲れ様でした。ボランティアさんも楽しめたのではないのでしょうか。何時もおもうのですが、田村君のクイズは難問過ぎて・・・。絵当てクイズは絵のうまい人、下手な人に分かれるので面白かったです。ひとときではありますが、暑さを忘れることが出来ました。

三木 直人

今年もメンバーの希望により暑気払いが行われる事になりました。準備委員には三名のメンバーと職員が一名選ばれて、出し物を決めたようです。今年も職員の女装があるのかと思っていたら、N君の可愛いメイドさんが一人居ただけでした。イントロクイズをやったり常識クイズをやったりして、楽しい一日を過ごしました。今年の暑気払いは昨年よりも賑やかだったような気がしています。委員の皆さんおつかれ気まです。とても楽しかったです。有り難うございました。

太田 圭子

実習所 報告

Ｔシャツ・タオルの時期なので、カタログ・申込書の作成や港区役所や図書館等への営業をしました。



歌と踊りの練習を朝の時間や土曜日の時間を使い行ったり、夏季営業のカタログ・申込書配りや商品配送を行いました。

田村 亮彦



手漉き和紙をやっています。大きな和紙も作り始めました。あとは吉田印刷さんから依頼された名刺拭きや、モリベさんから依頼された割り箸の袋詰めをやっています。仕事を一生懸命丁寧にやっています。

齊藤臣一
(インタビューアー田村)

寄付のお礼

賛助会にご賛同

して下さった方

大野正美様・ゆきみ様、
鈴木公子様、
阿部りょう子様
諸角始子様

寄付を下された方

高野カネ様、
谷島イクエ様、
井出義文様

ご協力ありがとうございます。
ございます。

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語のdormitory つまり寮という意味】

第30話 途中入寮生について その4 ～ 海、そして星空の下 ～

マリの車のスカイラインで寮を出る。しばらく南下して246号線に入る。どうやら伊豆か熱海あたりを目指すようだ。「いい天気だね」「そうだな」「水着持ってくればよかったかな？」「足をつけるくらいなら、デニムをまくればいいだろ」「・・・そうだね！」後部座席からはオチとサチの明るくさわやかな会話が聞こえる。マリもたまたま会話に入りこみながら運転を続ける。ちょっと息苦しさを感じて助手席の窓を少し開けて、僕はマルボロを深く吸い込んだ。

246から129へ移り、厚木を越えて茅ヶ崎あたりで海岸通りに入ると海が見える。「わあ！ 海だ！」「水平線までくっきり見えるな」「あたしも見たーい！」「おまえは運転に集中しろって」左手に海を眺めながら、国道1号をさらに進む。

海岸沿いの道を走り抜けて、適当な場所を見つけて車を停めて砂浜へと降りる。波際をじゃれながら走り回るオチとサチを眺めながら僕は砂の上に腰を下ろす。「行かなくていいのか？」少し離れたところにぼつんと立っているマリにそう投げかけてみる。水平線の上、はるか遠くを進むタンカーに視線を置いているような感じのマリは「うん、ちょっと休憩」といいながらそこに座りこむ。「なんだかなあ・・・」誰に投げかけた訳でもない言葉を宙へと浮かばせながらマルボロを啜える。何を撮る訳でもなく持ってきたカメラを手に取り、ファインダー越しにマリを眺める。マリの視線の先を追ってみると、そこにはオチとサチがいる。「なんだかなあ」つぶやきながら僕はシャッターを切る。

「せっかく来たんだから、ヅカシさんも海どうっすか？」筋肉質な上半身を惜しげもなくさらけ出しながら、さわやかさを満面に出したような笑顔でオチは言う。そんなオチの健全さに少しあてられながらも僕は彼の手を取り海へと歩く。シーズンにはやや早く、夏休みにもまだ入っていない海はちょっとだけ冷たさを感じたが、焼けつくような夏の陽射しをまぎらわすにはちょうど良かった。「意外と冷てーな」「それが海っすよ」「きゃはは！ ヅカシ、えーい！」サチの背後からの予期せぬ強襲にあい、僕は海中にざぶんと転げる。「ぶはあー、サチ、何すんだ！？」「ははは！ ずぶ濡れヅカシ！」「大丈夫っす。おれ、替えの短パン持ってきてるっす」「ったく・・・」「わーい、おもしろー！」ちらと浜辺を見ると、マリはそんなやりとりを僕のカメラのファインダーから見ていた。

3人がそれぞれに服を濡らしながら海辺で遊び疲れた後、マリの元に寄って服を乾かしながら浜辺に寝転ぶ。ある程度かわいてきた頃合いで車に乗り込みファミレスで軽く食事をする。腹ごなしを済ませ一服し、また車を走らせる頃にはもう日が暮れかけていた。「ねえ、星を見に行こうよ！」突然サチが言う。「いいっすね。どうっすか？」オチの問いかけを僕が促す「今日の締めくくりとしてはいいんじゃないか」「・・・そうだね」マリも同意し、車は峠道を目指す。

峠道を上がり、街灯もまるでないような山道まで達して、広場を見つけて車を停めて車外に出る。木々のざわめきを除けば静寂に取り囲まれた山の中で、見上げるとそこは満天の星空が上空を覆っていた。「わあ、きれーい！」「まるで星が降ってくるようだ」「あ！ 流れ星！」「え？ どこだよ？」暗闇の中でのオチとサチとのやり取りを耳にしながら、僕は広場に寝転がる。すぐそばにはマリがいる気配がする。「・・・いいのか？」暗闇の中、マリの気配がある方へ投げかける。少しの間を置いてから、その気配の方からマリの声が聞こえる「・・・うん。いいんだ。なんか、いろんなことがわかった気がする。これがいい機会だったのかもしれないってね・・・あたしも、そろそろ気持ちにけじめをつけなきゃね・・・」。意外なほどにマリの声が近かったことと、マリの言葉に二重に驚いた。手を伸ばせば、その手を握ってやれるかもしれない。そんな距離にいながら、僕はその手を握ることもできずに、今にも降ってきそうな星空に向けて手を伸ばすことしかできなかった。

～ すみません、こんなオチで。 31話からは新章です～



夕会便り



今回は合併号につき夕会報告も2ヶ月分。といってもほとんど歌と踊りの集いの練習に費やされている。5月最終週から7月第1週までは（6月の総会日を除けば）ほぼ練習漬けだった。

練習風景について少し書いてみる。初めのうちはとにかく歌を覚えることに専念した。今年の歌は「一週間」。これを風の子の日常や作業などを紹介する替え歌にして、みんなで歌うのだ。替え歌の歌詞は担当職員の山名、丸山2名が作成した。音も、二人の職員がパソコンで編集し、それに合わせてみんなで歌うのだ。オリジナルの曲をかなりアレンジし、ロック調になっているため始めはみんな戸惑っていた。けれども何度も歌い続けていくにつれ、次第に慣れていく。みんなの歌声を録音し、曲と合わせて編集し、本番ではそれに合わせてみんなで踊るのだ。担当職員は僕らの目に見えないところで相当に頑張ってくれたのだろう。歌を覚えたあとは、みんなで振り付けの練習。全体的なイメージをみんなが掴むまでは結構苦勞する。特に職員はあれこれと動き回るため、覚えるのが大変だ。それでも回を重ねれば、それなりに形にはなっていく。本番前にはみんなそれなりの手応えを感じていたように思う。朝生くん、野田くん、斉藤くんのダンスパフォーマンスは今回の肝だが、彼らも練習の積み重ねがちゃんと結果として表れていたように思う。本番を見てくれた方々がどのように感じてくれたかはわからないが、何度も何度も練習を重ねた上でのあの演技は、僕らも十分に満足していると思う。



歌と踊りの集いが終わり、7月17日の夕会では今後の風の子会をよりよくしていくためにはどんな物品や機材が必要だろうかということを中心にみんなで話し合う。地デジ対応テレビが欲しい、パソコンを新しく買い換えたい、和紙ハガキ制作の器材を新調したい、マッサージチェアを買おう (!?) など様々な意見が出る。メンバーや職員でいろいろ語り合い、煮詰めようとはしたが結論には至らず。2週に渡ってこのテーマで議論し、今後の活動の展望を模索する。

7月最終週の夕会では旅行のパンフレットの表紙を飾るキャッチコピーをみんなで決める。しかしこの日は半分近いメンバーが欠席し、加えて同時刻に別室で理事会も開かれていたため、少人数での話し合いとなってしまった。そのせいか議論も少し集中力が欠けたものになっていたように感じられる。どんな場合でも建設的な議論ができるようにならなければと反省した（あくまでも個人的にだが）夕会であった。



担当・小野塚

編集後記



和栗 顕太郎

私が、念願だった、デジタル・ハイビ
ョンテレビと、DVDつきビデオレコー
ダー、オールウェーブラジオと、ヒゲ剃
りも買うことができて楽しい買い物でし
た。デジタルテレビの性能の素晴らしさ
には今更ながら驚きました。ハイビョン
の映像ははつきりキレイに写るし、私が
感心したのはテレビの映像を、いつでも
録画出来ることです。更に良いことは、
色々な情報が即座に見られることでした。
思えば、私が初めてビデオを買ったのは、
今から四十数年前でした。誰でも簡単
に操作ができるカセット方式を採用し、
家庭用ビデオを作ったのが、パナソニッ
ク（当時のナショナル・松下電気）でし
た。これに対抗したのが、ソニーと三洋
電機で、ソニーが独自に開発し、ベータ
方式を採用したナショナル方式と、ソニ
ーのベータ方式は、同じカセット方式で
すが、ソニーのベータは、三分の二の大
きさで、コンパクトが特長であった。
結局小形のベータ方式は、録画の時間
の短さでソニーに敗退したが、その後ソ
ニーは、ナショナル方式に切り替えると、
外国、主に米国に、猛烈に輸出に力を入
れた。これにより日本製ホームビデオは
世界をリードした

僕は今、毎日ワールドカップサッカー
をテレビで見えています。ところ
が時間差がありすぎて、寝不足になり
がちの今日この頃、ワールドカップば
かりをみていたらプロ野球の順位がわ
からなくなってきました。今世界中を、
沸かせているワールドカップも十一日
で幕を閉じます。ワールドカップが終
わるといよいよ高校野球の地区予選が
始まります。僕は、どちらかといえば
そちらの方が、興味があります。今年
はこの高校が東京代表として、甲子
園に出てくるか、とても楽しみです。

太田 稔

五十年来の友と初めての旅行に行っ
た。クーちゃんとは旦那と友と妹一人と、
恩納村の美ら海水族館へ。亀が可愛い
かった。女だけ四人で買い物三昧。お
昼からは海へ。さよと乗る初めてポー
ト。海は透明で底が見えた。膝枕され
ながら寝ていると、オールのしぶきが
顔にかかった。Lガードが海に潜って
モーターボートに乗り干潮遠浅ツナを
引張って、Lガードが針千本を捕ま
えて見せてくれた。
室内のプールに移りライフジャケット
を着て背泳ぎしていたけど、腹這い
になってしまえばプールの水を飲んでし
まった。



太田 圭子

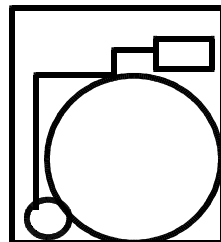
ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ～定価40円～

編集人：【高浜生活実習所】
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21



編集者
太田 圭子
小野 航
田中 聡
松本 恵
右田 子
吉田 代
和栗 顕太郎
幸木 高史
三村 直人
田村 亮彦
佐久間 庸
太田 稔